

Press Release

平成 29 年 11 月 17 日

東南アジア漁業開発センター（SEAFDEC）との協力活動について — SEAFDEC 職員の手鷹丸による南極海調査航海への参加 — (東京海洋大学・東南アジア漁業開発センターの共同プレスリリース)

東京海洋大学と東南アジア漁業開発センター(SEAFDEC, South East Asian Fisheries Development Center)は、両者の「学術協力に関する協定書(2004年締結、その後2010年と2015年に更新)」に基づき、東京海洋大学手鷹丸のタイ寄港時の学術セミナーの開催や東京海洋大学からSEAFDECの活動に関する科学的助言の提供など、各種の協力活動に取り組んでおります。

今般、手鷹丸の第53次航海(一部、第21次手鷹丸南極観測航海_KARE21, UM-17-09)に、SEAFDEC職員一名が参加し、手鷹丸の調査活動の視察、研修活動を行うこととなりましたのでお知らせします。

この乗船を通じ、東京海洋大学とSEAFDECの間の協力関係が一層強化され、また、今後の調査船観測活動における両者の連携が確保されることが期待されます。

(参加者氏名) Ms. Pontipa Luadnakrob

(専門分野) 水産海洋学

(乗船期間) 平成29年12月28日～平成30年1月23日

(参加目的) 手鷹丸の調査活動等のオブザーバー観測、調査活動の支援等

なお、手鷹丸の第53次航海(遠洋航海、平成29年11月13日～2月19日)は、水産専攻科が実施する三級海技士免許(航海)の取得に向けた、水産学教育の"総仕上げ"として行われる。この一環として、オーストラリアのフリーマントルで研究者を乗せて平成29年12月31日に出港した後、南極海で調査(KARE21, UM-17-09、平成30年1月2日～1月20日)を実施する。この調査では、文部科学省の「南極地域観測事業」に基づき大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所との連携に基づく南極海の表層から底層までの海洋物理・化学的観測ならびに生物学的観測を行うとともに、環境省環境研究総合推進費による研究課題「沿岸から大洋を漂流するマイクロプラスチックの動態解明と環境リスク評価」の一環として南極海でのマイクロプラスチックの採集を行います。

東南アジア漁業開発センター (SEAFDEC) : Southeast Asian Fisheries Development Center

SEAFDEC は東南アジア諸国連合 (ASEAN) 加盟 10 カ国と日本をメンバーとし、東南アジア海域の漁業開発の促進に寄与することを目的として設立された水産分野の地域国際機関です (加盟国: ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)。



写真 (左) 乗船する SEAFDEC 職員 Ms. Pontipa Luadnakrob。
(右) 東京海洋大学 練習船 海鷹丸

【本件についての問い合わせ先】

国立大学法人東京海洋大学

理事 副学長 東海 正

TEL : 03-5463-0390

E-mail : tokai@kaiyodai.ac.jp

【発信元】

国立大学法人東京海洋大学総務部総務課広報室

TEL : 03-5463-0355 E-mail : so-koho@o.kaiyodai.ac.jp

<https://www.kaiyodai.ac.jp/>